

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

Title	時間に関わるマデニとマエニ
Author	藪崎, 淳子
Citation	文学史研究. 54 卷, p.55-64.
Issue Date	2014-03
ISSN	0389-9772
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学国語国文学研究室
Description	

Placed on: Osaka City University Repository

Osaka Metropolitan University

時間に関わるマデニとマエニ

藪崎 淳子

一、はじめに

マデニとマエニには、従属節の動詞句に接続し、主文の事態実現の時間に関わる、次のような用法がある(以下、「マデニ」「マエニ」は当該用法を指す^(注1))。

(1)このうち森崎、辻野上、杉田、日高、岡崎の五人は戦争が終る(までに／マエニ)亡くなったが、柳谷だけはムンダ方面の戦闘で右手首切断の重傷を負い、病院船で呉へ帰って来て生き残った。(山本五十六)

(2)『小雪』さんの方にお世話になる(前に／マデニ)は、二三度お店を変ったようですが、便りも一年に二回か三回ぐらいで、どんな暮らし方をしているかさっぱりわかりません。(点と線)

(1)はマデニに後接する「亡くなった」ことが、前接する「戦争が終る」ことよりも先に実現したことを表している。(2)はマエニに後接する「二三度お店を変った」ことが、前接する「『小雪』さんの方にお世話になる」ことよりも先に実現したことを表す。両形式に前接する語句の表すことがらを「前件」、後接する語句の表すことがらを「後件」と呼ぶと、マデニとマエニは、後件が前件よりも先に実現することを表す点で共通している(工藤一九九五、グループ・

ジャマシイ一九九八^(注2))。そのため、(1)(2)のように、相互に置換しても意味に大きな差がない場合がある。しかし、次の例を見られたい。

(3)投げられた綱は風に吹き払われるので、栄二がそれを掴む(までに／??マエニ)、三度もやり直さなければならなかった。(さぶ)

(4)女たちは、彼の脊下につきをあてズボン下を洗濯し、次に来る(までに／??マエニ)乾かしてアイロンをあてておいてやる。(山本五十六)

(5)「はなしてきかせる(前に／??マデニ)、だれも、ここへ入って来ぬようにしてきてくれ」(剣客商売)

(6)鍋のスープとほぼ同量の牛乳またはクリームを別鍋で熱くして加え塩とこしょうで味をととのえ、ふつととうする(前に／??マデニ)火を止め、最後にバターを落とす。(聡明な女は料理がうまい)

(3)は後件の「三度もやり直す」ことが、前件の「綱を掴む」こと成功に先んじて実現することを表し、(4)も後件の「ズボン下を乾かしてアイロンをあてておく」ことが前件の「次に来る」ことより先に実現することを表す。このように、(3)(4)のマデニは後件が前件より先に実現することを表す点では(1)と同じであるものの、マエニに

置換した際の許容度は(1)よりも低い。(5)は後件の「入って来ないようにする」ことを、前件の「はなしてきかせる」ことよりも先に実現させるよう命じている。(6)も後件の「火を止める」ことが前件の「ふっとうする」ことより先に実現することを表す。つまり、(5)(6)のマエニの表す前件と後件の時間関係は(2)と変わらないものの、マデニに置換した際の許容度は(2)よりも低い。(3)～(6)に見られるように、後件が前件に先行して実現することを表すという説明だけでは、両形式の差異は十分に把握できないことから、本稿で記述の精密化をはかりたい。

二. 先行研究と問題の所在

マデニとマエニの差異について論じたものに、寺村(一九八三)があげられる。寺村(一九八三・二四五)は、「PマデニQは、話し手が、P点以後の事態に関心をもち、それがQの生起の結果実現する状態であること、その実現がおそくともP点であることを言いたいという、そういう条件の下に生まれる表現であるのに対し、PマエニQは、そのような裏の意味、含みはなく、たんにQということがP点以後にではなく以前に起こったということだけを言うだけである」と述べる。また、マデニの後件に「意志、命令、願望、勧誘など、情意的な表現」が多いことを指摘し、その理由も「Qの結果が実現することに話し手の関心があり、それをPという時点との関係で限定するというのがこの構文の表現的条件」だからであるとす。そして、「単にある事件の発生の時間的前後関係を客観的に報ずるときには(中略)マエニを使うべきで、マデニはそぐわない」と主張する。

しかし、次の例はどうであろうか。

(1)このうち森崎、辻野上、杉田、日高、岡崎の五人は戦争が終る(までに)マエニ亡くなったが、柳谷だけはムンダ方面の戦闘で右手首切断の重傷を負い、病院船で呉へ帰って来て生き残った。(山本五十六)

(1)の「戦争が終る」という「P点以後の事態」は、「五人が亡くなった」という「Qの生起の結果実現する状態」とは捉え難いものの、マデニが用いられている。

(5)「はなしてきかせる(前に)マデニ、だれも、ここへ入って来ぬようにしてきてくれ」(剣客商売)

(5)は命令文であり、「だれも入って来ないようにしてくる」という「Qの結果が実現することに話し手の関心」があると言えようが、マデニではなくマエニが用いられている。従って、寺村(一九八三)の主張は全ての例にあてはまるわけではない。

以上から、両形式の差異は「話し手の関心」の有無、あるいは「客観的」か否か、とは別の観点から考察する必要があると本稿は考える。

三. マデニとマエニの差異

結論から述べると、マデニとマエニは二つの点で異なる。一つは、後件が最終的にどの段階で実現していればよいと想定されるのか、という「後件の実現期限」についてである。具体的には、マデニの「後件の実現期限」は前件の終了時であるのに対し、マエニのそれは前件の開始に先行する時点である。もう一つは、後件の実現はいつから可能であると想定されるのか、という「後件が実現可能な最初の時点」

についてである。具体的には、マデニの「後件が実現可能な最初の時点」は期限である前件の終了時から一定量離れていなくてはならないのに対し、マエニのそれは期限である前件の開始時に近くななくてはならない。以下では、「後件の実現期限」と「後件が実現可能な最初の時点」、という順で両形式の差異を見ていく。

三・一 後件の実現期限

先に触れたように、両形式は後件の実現期限に異なりがある。マデニの後件の実現期限は前件の終了時であるのに対し、マエニのそれは前件の開始に先行する時点である。

- (3) 投げられた綱は風に吹き払われるので、栄二がそれを掴む（までに／??マエニ）、三度もやり直さなければならなかった。（さぶ）
（5）「はなしてきかせる（前に／??マデニ）、だれも、ここへ入って来ぬようにしてきてくれ」（剣客商売）

(3)の前件の「綱を掴む」は、綱を掴もうと動作を始めてから掴むことに成功するという、開始から終了に至る間に過程のある動作を表す。そして、掴むことの成功、即ち前件の終了時を期限とし、そこに至る間に後件の「三度もやり直す」ことが実現したことを表す。(5)の前件の「はなしてきかせる」も、話し始めてから全てを話し終わるに至る過程を含む動作を表す点では(3)と同じである。しかし、(5)は話し始めに先行して、後件の「だれも入って来ないようにしてくる」ことを実現させるよう命じている。そして、(3)にはマデニが、(5)にはマエニが、それぞれ用いられていることから、マデニの後件の実現期限は前件の終了時であるのに対し、マエニのそれは前件の開始に先行する時

点であることが裏づけられる。このように、両形式が後件の実現期限をめぐって異なることは、次の例にもあらわれている。

- (7) 「冷凍食品を急いで解凍するときには電子レンジがあつてよかったと思うわよ」と言う人もいるが、まぎわになってバタバタとかそうとする無計画がいけないのだ。私は今夜あたりそろそろ使いたいなど思うものは朝出かける前に冷凍庫から出して夕方帰る（までに／??マエニ）自然にとかしておく。

(8) 私はすぐ下宿へは戻らなかった。国へ帰る（前に／マデニ）調のえる買物もあったし、御馳走を詰めた胃袋にくつろぎを与える必要もあったので、ただ賑やかな町の方へ歩いて行った。（こころ）
(7)(8)はいずれも「帰る」に両形式が接続している。この「帰る」は、「出かけ先を出発する」、あるいは「元いた場所に到着する」という開始と終了が同時である瞬間的な動作を表す場合と、「出かけ先を出発して移動し、元いた場所に到着する」という過程を含む動作を表す場合がある。(7)の「帰る」は「出かけ先を出発して」から家に到着するに至る過程を含む動作を表し、家への到着という「帰る」の動作終了時を期限とし、それ以前に冷凍食品がとけていればよいことを表している。一方、(8)の「帰る」は「出かけ先を出発する」という開始と終了が同時である動作を表し、国に向かって下宿先を出発する時間、即ち「帰る」という瞬間的な動作の開始に先行して「調のえる」ことを表している。(7)にマデニが用いられ、マエニがなじまないのは、前件の動作の開始時と終了時が異なり、そのうちの終了時が後件の実現期限となっているためである。一方、(8)にいずれもなじむのは、前

件の動作の開始時と終了時が同時であるため、後件の実現期限が、前件の開始に先行する時点であるとも、前件の終了時であるとも捉えられるからである。次の例におけるマデニとマエニの許容度の差異も同様に説明される。

(9) その日彼は父から歳暮の金を貰うと、小田原まで、弟と二人の下駄を買う為に出掛けた。ところが下駄屋へ来る(までに/??マエニ) 彼は不図、或唐物屋のショウウインドウでその小さい水兵帽を見つけた。彼は急にそれが欲しくなった。其処で後先の考もなく、彼は彼の財布をはたいて了ったのである。(真鶴)

(10) 喜助は、帰宅すると、作業場へ入った。未完成の竹人形にとりかかった。玉枝がくる(までに/マエニ)、どうしても完成させねばならないと思った。(越前竹人形)

(9) (10) の前件「来る」も先の「帰る」と同様、「目的地へ到着する」という開始と終了が同時である瞬間的な動作を表す場合と、「出発して移動し、目的地へ到着する」という過程を含む動作を表す場合がある。(9) では下駄屋へ向って移動する途中で後件の「水兵帽を見つけて」ことを表し、後件は前件の開始後に実現している。そのため、後件の実現期限が前件の開始に先行する時点であるマエニは許容し難い。一方、(10) は「玉枝の到着」という開始と終了が同時である瞬間的な動作に先行して、後件の「竹人形を完成させる」ことの実現が必要であると述べている。そのため、後件の実現期限は前件の開始に先行する時点とも終了に先行する時点ともとれ、いずれの形式も許容されるのである。

こうした両形式の差異は、次のような用法の有無とも無関係ではな

かろう。

(11) かの女はよめにもらい手がつく(まえに/??マデニ)、病気になるってかえってきた。(二十四の瞳)

(12) 彼らほたいいて国境を壁で蔽いきる(まえに/??マデニ) 内乱か隣国の王によって亡ぼされていったので、壁は国境線のあちらこちらでばらばらに切れたままになっている。(流亡記)

(11) (12) は前件が実現しない点で共通する。(11) では「もらい手がつく」とかないまま病気になるってかえることを、(12) では「国境を壁で蔽いきる」ことがないまま国が亡ぼされることを表す。(11) (12) の前件は瞬間的な動作を表し、本来、その動作の開始と終了は同時である。しかし、実現しない事態の場合、動作の開始に先行する時点は想定できても、動作の終了時は存在し得ない。そのため、当該用法は、後件の実現期限が前件の開始に先行する時点であるマエニには表し得ても、後件の実現期限が前件の終了時であるマデニには表し得ないのだと考えられる。^(注4)

実際、相互置換可能な例は、前件が実現する瞬間的な動作を表し、後件の実現期限が前件の開始に先行する時点とも、前件の終了に先行する時点ともとれる。

(1) このうち森崎、辻野上、杉田、日高、岡崎の五人は戦争が終る(までに/マエニ) 亡くなったが、柳谷だけはムンダ方面の戦闘で右手首切断の重傷を負い、病院船で呉へ帰って来て生き残った。(山本五十六)

(2) 『小雪』さんの方にお世話になる(前に/マデニ) は、二三度お店を変ったようですが、便りも一年に二回か三回ぐらいで、どん

な暮し方をしていかさっぱりわかりません。(点と線)

(1)の前件の「戦争が終る」、(2)の前件の「お世話になる」は、いずれも開始と同時に終了に至る瞬間的な動作を表す。そのため、(1)の後件の「亡くなる」ことも、(2)の後件の「三度お店を変える」ことも、前件の開始と同時に先行して実現していると言える。

以上のように、マデニとマエニは後件の実現期限をめぐって異なり、マデニのそれは前件の終了時であるのに対し、マエニのそれは前件の開始に先行する時点である。そのため、前件が過程を含む動作の場合、その開始時と終了時が異なることから、両形式の使用に制約が生じる(Ⅱ(3)(5)(7)(9))。また、前件が瞬間的な動作であってもそれが実現しない場合、動作の開始に先行する時点は想定できても、終了時は想定できないことから、使用に差がある(Ⅱ(11)(12))。一方、前件が実現する瞬間的な動作の場合は、その開始時と終了時が同時であることから、相互置換可能になる場合がある(Ⅱ(1)(2)(8)(10))。なお、前件が実現する瞬間的な動作であっても相互置換できない場合(Ⅱ(4)(6))については、次節で見る。

では、なぜマデニとマエニでは後件の実現期限が異なるのであろうか。その理由について、本稿はそれぞれの構成要素である、マデ・マエの語義によるものと考ええる。マデは、「玉ねぎをきつね色になるまで炒める」であれば、「きつね色になった」と言える、動作の終了に到達する程度に「炒める」ことを表すように、前接する動詞句の表す動作の終了の局面を到達点として示す。そのため、マデニにおいても前件の終了時を到達点として示すことから、後件の実現期限は前件の終了時となるのであろう。一方、マエは「私の前を歩く男」であ

れば、「私」の視線の向う先に「男」がいることを表し、「私」と「男」の間にはたとえわずかであろうとも必ず隔りがある。「五時前」であれば、「五時」に至っていない時点、即ち時間軸上の「五時」よりも過去の方向に隔たった時点を目指す。このように、マエは前接する語句の表す基準点からわずかでも隔たる点を指し、場所であれば基準となる地点から視線の向う方へと隔たる地点を、時間であれば基準時から過去の方へと隔たる時点を目指す。こうしたマエの語義により、マエニは基準となる前件から過去の方向に隔たる時点に後件が位置づけられる。その結果、後件が終了した後に間において前件が開始することから、マエニの後件の実現期限は前件の開始に先行する時点となるのである。

三・二 後件が実現可能な最初の時点

三・一で見たように、マデニとマエニは後件の実現期限をめぐって差があり、前件が実現する瞬間的な動作を表す場合にその差異が緩和される。しかし、前件が実現する瞬間的な動作を表していても常に相互置換できるわけではなく、相互置換できない場合もある。こうした現象が生じる理由は、後件の実現はいつから可能であると想定されるのか、という点における両形式の差異から説明される。

- (13) 鍋のスープとほぼ同量の牛乳またはクリームを別鍋で熱くして加え塩とこしょうで味をととのえ、ふつとうする(前)に／??マデニ 火を止め、最後にバターを落とす。(Ⅱ(6))

- (14) こんなことならなせもう五分早く家を出なかったのか。(中略) よううサイレンの鳴りだす(まえ)に／??マデニ 校門へとびこむ

と、ひとしきり汗が——運動による発汗と不安の極致にあった冷汗とが一度に吹きでてくる。
(榎家の人々)

(15) このうち森崎、辻野上、杉田、日高、岡崎の五人は戦争が終る(までに/マエニ)亡くなったが、柳谷だけはムンダ方面の戦闘で右手首切断の重傷を負い、病院船で呉へ帰って来て生き残った。
(1)

(16) 『小雪』さんの方にお世話になる(前に/マデニ)は、二三度お店を変ったようですが、便りも一年に二回か三回ぐらいで、どんな暮らしをしているかさっぱりわかりません。
(2)

(17) 私はすぐ下宿へは戻らなかった。国へ帰る(前に/マデニ)調のえる買物もあったし、御馳走を詰めた胃袋にくつろぎを与える必要もあったので、ただ賑やかな町の方へ歩いて行った。
(8)

(18) 喜助は、帰宅すると、作業場へ入った。未完成の竹人形にとりかかった。玉枝がくる(までに/マエニ)、どうしても完成させねばならないと思った。
(10)

(19) 女たちは、彼の沓下につきをあてズボン下を洗濯し、次に来る(までに/??マエニ)乾かしてアイロンをあてておいてやる。
(4)

(20) 緊張は、日に日にたかまった。私は寝る前にランドセルの中身を三度調べ、朝起きてから家を出る(までに/??マエニ)、また点検しなくては気が済まなかった。
(ポプラの秋)

まず、マデニがなじみにくい(13)(14)に着目すると、いずれもマエニを「直前に」と言い換えても文意に大きな差がない点で(15)と異なる。(13)では後件の「火を止める」ことが前件の「ふっとうする」直前に実現することを、(14)も後件の「とびこむ」ことが前件の「サイレン

の鳴りだす」直前に実現することを、それぞれ表しているのとれ、後件が前件の開始||終了時に十分や二十分も先立って実現するといった解釈は成り立たない。つまり、(13)(14)の後件が実現可能な最初の時点は、期限である前件の開始||終了時の間近である。次に、「直前に」とは言い換え難い点で共通するものの、マエニの許容度に差のある(15)と(19)(20)を比べよう。(15)において「亡くなった」のが戦争が始まって間もなくや、始まりから終りに至る中ほどであれば、「戦争が始まってすぐ」「戦時のさなか」など、他の時間表現が担うと考えられ、「戦争が終るまでに」とあるからには、前件の「戦争が終る」時点とさほど遠くない時点で後件が実現したと捉えられる。(16)も『小雪』さんの方にお世話になる」よりも過去のことを述べているのであるが、幼少期といった遠い過去のことではなく、「お世話になる」近辺の過去のことを述べているのとれ、後件が実現可能な最初の時点は前件の開始||終了時に近い。(17)においても、「調のえる」ことが「国へ帰る」ことの数カ月も先に実現するといった解釈は成り立たず、後件は前件の開始||終了時に近い時点で実現すると読める。(18)は「帰宅してすぐに作業を始めた」ことが前の文にあり、竹人形の完成を急いでいるととれる。そのため、作業開始から「玉枝がくる」に至る時間が、完成に要する時間としてそれほど余裕がなく、後件の「竹人形の完成」は「玉枝がくる」という前件の開始||終了時に近い時点で初めて実現可能となると解釈される。このように、相互置換可能な(15)と(18)は、いずれも後件が実現可能な最初の時点が、前件の開始||終了時に、間近とまではいかないものの、近い時点であると言える。これに対し、マエニがなじまない(19)(20)の後件は、前件の開始||終了時から

離れた時点で実現することが可能である。(19)の「ズボン下を乾かしてアイロンをあてておく」ことは、「彼」の最後の来店後すぐに実現してもよく、特に「(彼が)次に来る」という前件の開始「終了時に近い必要はない」。(20)は「朝起きてから家を出る」間に「点検する」ことを表している。この「朝起きてから家を出る」に要する時間は、通常一、二時間程度と考えられ、物理的に長時間というわけではない。しかし、カラが共起することで、後件の実現はカラとマデニで表される間のいつでもよく、朝起きた直後など、前件の「家を出る」時点から離れた時点でも構わないとされる。(20)のカラを除くと、「家を出る前にまた点検しなくては気が済まない」とマエニが許容され、「家を出る直前に点検する」といった意味に転することからも、カラの共起が、後件の実現が前件の開始「終了時に近くなる」ともよいことを保証していると考えられる。このように、マエニがなじみにくい(19)(20)は、後件が実現可能な最初の時点が前件の開始「終了時から離れている」と捉えられる。

ここまで見たことを整理すると次の通りである。

【表一 前件が実現する瞬間的な動作を表す場合のマデニとマエニの使用可否】

後件が実現可能な最初の時点	マデニ	マエニ	用例
前件の開始「終了時の直前」	×	○	(13)(14)
前件の開始「終了時と近い」	○	○	(15)(16)(17)(18)
前件の開始「終了時から遠い」	○	×	(19)(20)

表一に示したように、マデニの場合、後件が実現可能な最初の時点は前件の開始「終了時の直前であってはならず、前件の開始「終了時から一定量離れていなくてはならない。一方、マエニの場合、後件が実現可能な最初の時点は前件の開始「終了時から遠く離れてはならず、前件の開始「終了時に近くなる」ではない。こうした両形式の異なりは、次の例によくあらわれている。

(21) 私は新聞で乃木大将の死ぬ前前に書き残して行ったものを読みました。西南戦争の時敵に旗を奪られて以来。申し訳のために死のうら死のうと思つて、つい今日まで生きていたという意味の句を見た時、私は思わず指を折つて、乃木さんが死ぬ覚悟をしながら生きながらえて来た年月を勘定して見ました。(二二〇)

(21') 死ぬ前前に書き残して行ったもの

(21)と(21')は、前件の「死ぬ」という瞬間的な動作の実現に先行して、後件の「書き残す」ことが実現したと表す点では同じである。しかし、(21)は「書き残して行ったもの」が辞世の句と捉えられるのに対し、(21')のそれは生涯を通じて残した作品群や、一生のどこかで成した作品といった感がある注6。辞世の句は死を意識した際に詠むものであり、いつ詠んだものでもいいというわけではない。(21)において「書き残して行ったもの」が辞世の句と捉えられるのは、後件の「書き残す」ことは前件の「死ぬ」の開始「終了時に近い時点で実現したとマエニが表すためである。このことは、死ぬ三十年前や四十年前に書いたものを「死ぬ前前に書き残して行ったもの」とは言い難いことから裏づけられよう。一方、(21')において「書き残して行ったもの」が辞世の句と捉え難いのは、マデニの場合、後件の実現は前件の開始「終了時から遠

く離れた時点でもよいことから、「誕生」という人生の始発点から「死ぬ」という到達点に至る長い時間の中で「書き残す」ことが実現した、と表すためであると説明される。

では、なぜマエニの場合、後件が実現可能な最初の時点が前件の開始Ⅱ終了時から大きく離れることを表し得ないのであろうか。この理由もまた、マエの語義によるものと本稿は考える。マエは、場所か時間かを問わず、基準点から隔たる点を指すものの、その指し示す点は基準点から大きく離れることはない。「ビルの前」によって示される場所は、基準となる「ビル」から一キロメートルや二キロメートルも遠く離れたところとは考えられず、「ビル」からそう大きく離れていない範囲に限られている。「五時前」も、四時五十分から五十九分ぐらいを指していると捉えられ、二時や三時など、基準の「五時」から大きく離れた時点を指しているとは通常考えられない。もちろん、マエの示す範囲は基準の地点から何メートル、あるいは基準時から何分、と具体的に限定されるものではないが、「五時前」であれば四時五十五分ぐらい、「昼前」であれば十一時半頃、などと、基準点との関係から相対的に近いと感じられる範囲に限定されている⁽¹⁴⁾。そのため、マエニも基準となる前件の開始時とそれほど大きく隔たらない範囲で後件が実現することしか表し得ないのであろう。

一方、マデニはなぜ、後件が実現可能な最初の時点が前件の開始Ⅱ終了時の直前である場合になじまないのであらうか。その理由は、マデニが後件の実現時を期限内の任意の時点として特定しない性質を有するためであると考えられる。三・一で見たように、マデニの後件の実現期限は前件の終了時であるが、実際に後件が実現するのは

前件の開始以前でも、終了と同時にでもよいなど、期限内の任意の時点である。(19)(20)のように、後件が実現可能な最初の時点が前件の開始Ⅱ終了時と遠い場合であっても、(19)であれば「ズボン下を乾かしてアイロンをあてておく」ことは実際には「次に来る」直前に実現してもよく、(20)であれば、「点検する」ことは実際には「家を出る」直前に実現しても構わないなど、後件の実際の実現時は期限内のいつでもよい。こうした、後件の実際の実現時を定めず、期限内の任意の時点とする性質をマデニが有することは、次の例からも分かる。

(15)父は戦争が終わる(??までに/まえに)亡くなりました。

(寺村一九八三・二四六の(33a)(33b))

(15)は、前件の「戦争が終わる」という戦争の終了の局面とそれほど隔たらない時点で「亡くなる」という後件が実現したことを表す点では(15)と同じであるものの、マデニがなじまない。(15)と(15)の差は、「亡くなる人」が(15)は第三者であり、(15)は父親であるという点だけである。一般常識からすると、第三者の死亡日は不定であることもあろうが、父親の死亡日が不定であることはなからう。(15)にマデニがなじまないのは、不定ではあり得ない父親の死について述べることに、マデニが有する、後件の実際の実現時を期限内の任意の時点として特に定めない性質とが齟齬するからである。これに対し、(15)でマデニも許容されるのは、第三者の死はその実現時が不定であっても構わないためであらう。このように、マデニは後件の実際の実現時を特定しない性質を有する。マデニがなじみにくい、後件が実現可能な最初の時点が前件の開始Ⅱ終了時の間近である場合は、後件の実現が可能な時間の範囲が極端に狭く、それ故に、後件の実際の実現時が前件の開始Ⅱ終了の

直前に自ずと特定される。この、後件の実際の実現時が特定されることと、後件の実際の実現時を特定しない性質とが齟齬するために、マデニは後件が実現可能な最初の時点が前件の開始||終了の直前であることを表し得ないのだと考えられる。^{注8)}

四、おわりに

マデニとマエニは、構成要素であるマデ・マエの語義によって、「後件の実現期限」と「後件が実現可能な最初の時点」がそれぞれいつなのか、という二つの点で異なる。マデニは前件の終了時を期限とする、一定量の幅のある時間の中の任意の時点で後件が実現することを表す。一方、マエニは前件の開始時に先行する時点を期限とする、狭い時間の中で後件が実現することを表す。

【注】

(注1) 従属節の動詞句に接続するマデニとマエニには、本稿で扱う用法の他、次のような用法がある。

① 西国へ往くまでには、どれ程の難所があるか知れない。

(山椒大夫)

② 何やら段ボール置き場のような、狭苦しい部屋で、駅員が腕組みしながら立っている前に女が一人、ポツンと椅子に腰かけている
(女社長に乾杯！)

③ 飯も汁の実も、嘔んで嘔んで、強いていえばほとんど唾液化するまでに嘔みつぶし、腹へおさめる大治郎の食事は非常に長くかかった。
(剣客商売)

④ 試験場に入ってから出るまでに二十七分かかっていた。

(青春の蹉跎)

⑤ 通仙散を作り上げるまでに、青洲はどれほどの研究を重ねて来ただろう
(華岡青洲の妻)

①②は主節の事態が存在する場所を表し、③は主節の「嘔みつぶす」という動作の程度を表す。また、④は従属節の事態の開始から終了に要する時間を主節が表し、⑤は従属節の事態の開始から終了に至る間、主節の動作が継続することを表す。④⑤は時間に関わる点で、本稿で扱う用法と連続的であるが、マエニに当該用法がないことから、考察対象から外す。なお、時間に関わる用法でありながら、なぜ④⑤のタイプがマデニにのみあり、マエニにはないのであるについては(注5)を参照のこと。

(注2) 工藤一九九五・二二二は両形式について、「後続—先行」関係を表す点で共通する一方、マデニは「期間」、マエニは「時期」を表すとしている。ただし、「期間」と「時期」について詳しい記述はなく、なぜ相互置換可能な場合とそうでない場合があるのかについては分からない。グループ・ジャマシイ(一九九八)も、マエニは「XまえにY」の形でXの起きることが起るより先にYの起きることが起こること(五三六頁)を表し、マデニは「時間を表す名詞や出来事を表す節に付いて」示す「期限以前のある時点で動作や作用が行われること」(五四九頁)を表すと述べるに留まり、差異については言及していない。

(注3) 「行く」「来る」「帰る」といった移動動詞が、瞬間的な動作だけでなく、出発地から目的地への移動という過程を含む動作も表

すことは、藪崎(二〇〇九、二〇一二)にも論じている。

(注4) 前件が実現しない事態を表すマエニの例は、(11)(12)のような、前件が瞬間的な動作を表す場合だけでなく、過程を含む動作を表す場合にもある。

・令子が立ちあがり、洋服ダンスの奥から、先日満期になって、幾らかの利子とともに手元に返って来た百万円の入った袋を出し、男の前に差し出しました。私はその袋を男がつかむ(前)に／??マデニ 取りあげて、令子の膝の上に置くと、この金はお前の金だ、そんなことをする必要はないと言いました。(錦織)

(注5) (注1)の④⑤のようなタイプがマエニにはなく、マデニのみあるのは、後件の実現期限における差異によるものと考えられる。

④⑤はいずれも前件の終了時と後件の終了時が時間軸上で重なる。そのため、後件の実現期限が前件の終了時であるマデニには表し得ても、それが前件の開始に先行する時点であるマエニには表し得ないであろう。

(注6) (21)の「書き残して行ったもの」が辞世の句であることは、後続の文脈にもある。ただし、文脈なしに「死ぬ前に残して行ったもの」としても、それは辞世の句ととれることから、(21)との意味の差は、文脈ではなく、両形式の意味の差によるものといえる。

(注7) マエが基準点から大きく隔たる点を指すには、「ずっとまえ」や「十年まえ」など、発話時の「今」「ここ」を基準とし、程度量を表す語句を共起させるか、「五時よりずっとまえ」のように、「より」によって比較対象との関係を示さなくてはならない。

(注8) マエニは、(15)において自然であること、また(13)(14)のような例に

用いられることから、マデニとは異なり、後件の実際の実現時は不定である、といった意味は表さないと考えられる。

【引用文献】

工藤真由美(一九九五)『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現』くろしお出版
グループ・ジャマシイ(一九九八)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

寺村秀夫(一九八三)「時間的限定の意味と文法的機能」『副用語の研究』明治書院

藪崎淳子(二〇〇九)「格助詞マデ」の副助詞性について『日本語文法』9・2

藪崎淳子(二〇一二)「位置変化の始発点を示すカラとヲ」『表現研究』95

【用例出典】

『CD・ROM版 新潮文庫の100冊』／『聞蔵Ⅱ』／桐島洋子(一九九〇)『聡明な女は料理がうまい』文春文庫／湯本香樹実(一九九七)『ポプラの秋』新潮文庫